

時を守り

よりよく生きる力の育成

～自律と尊重～

礼を尽くす

学校要覧

福山市立駅家中学校

駅家中学校の学校教育目標

「よりよく生きる力の育成 ～自律と尊重～」

自律：自分の意思をしっかりと持って、考え、行動を選択しようとする姿

尊重：相手意識を持ち、相手の意見を受け止め、相手の幸せを願う姿

駅家中学校が育成する資質・能力

課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力

※学年別生徒に求める姿

	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
1年	○他者と協働し課題解決に向かうことができる。	○他者との関係を協調的に築こうと意識し、関わるができる。	○失敗を恐れず、困難に立ち向かう態度を養おうとしている。
2年	○根拠を持って他者と協働し、課題解決に向かうことができる。	○他者との関係を協調的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○失敗や困難から学び、自分の人生をよりよい方向へ導こうとする態度を養おうとしている。
3年	○根拠を持って主体的に他者と協働し課題解決に向かうことができる。	○主体的に他者との関係を協調的に築き、相手意識を持った関わりができる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている

駅家中学校の研究テーマ

「こどもの自律を促す学びの創造」

～あらゆる場面で、自分で考え、判断し、決定して行動できる力を育成する～

研究の柱

- ① 選択できる場面を増やす。選択したものをやりきらせる指導と支援
- ② 資質・能力が確実に身に付く教材研究・授業
- ③ こどもも大人も熱中する授業

○生徒数

	学級数	男 子	女 子	計
1 学年	4	6 3	6 1	1 2 4
2 学年	3	5 4	5 2	1 0 6
3 学年	3	5 4	4 7	1 0 1
特別支援学級	4	1 6	8	2 4
計	14	1 8 7	1 6 8	3 5 5

○日課表

8 : 25 ~ 8 : 30	朝読書 (帯タイム)
8 : 30 ~ 8 : 40	朝学活
8 : 50 ~ 9 : 40	1 校時
9 : 50 ~ 10 : 40	2 校時
10 : 50 ~ 11 : 40	3 校時
11 : 50 ~ 12 : 40	4 校時
12 : 40 ~ 13 : 30	給食・昼休憩
13 : 30 ~ 13 : 40	掃除
13 : 50 ~ 14 : 40	5 校時
14 : 50 ~ 15 : 40	6 校時
15 : 45 ~ 15 : 55	午後学活

○学級担任一覧

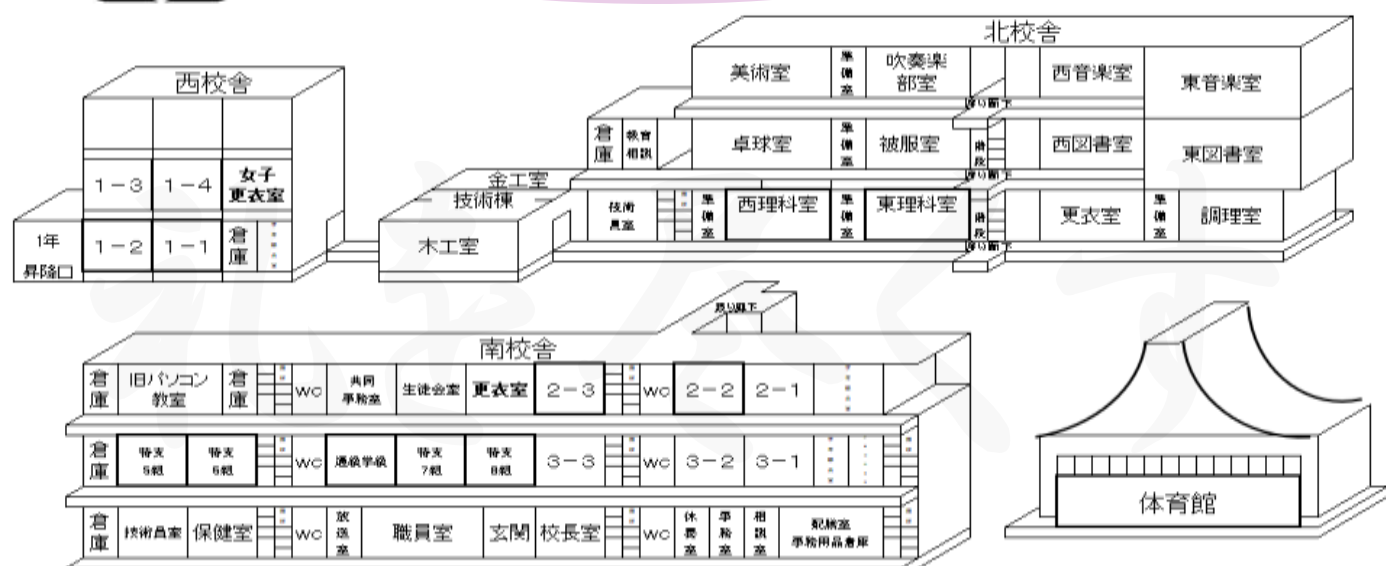
1 1 R	
1 2 R	
1 3 R	
1 4 R	
2 1 R	
2 2 R	
2 3 R	
3 1 R	
3 2 R	
3 3 R	
5 R	
6 R	
7 R	
8 R	

○教職員

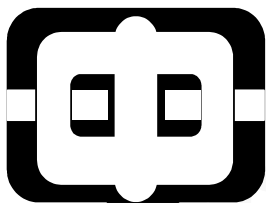
役職・所属等	教科	顧問	名前
校長	保体	—	
教頭	美術	—	
総括事務長	—	—	
11R担任【学年主任】	理科	バレー女子	
12R担任【保健主事】	保体	陸上	
13R担任【道徳推進】	社会	野球	
14R担任	国語	バドミントン	
1 年副担任	美術	美術	
1 年副担任	英語	バスケ女子	
1 年副担任	数学	(陸上)	
21R担任【生徒指導主事】	数学	陸上	
22R担任	理科	サッカー	
23R担任【学年主任】	英語	卓球	
2 年副担任	技術	吹奏楽	
2 年副担任	国語	—	
31R担任【学年主任】	社会	バレー男子	
32R担任【進路指導主事】	数学	ソフトテニス女子	
33R担任	国語	バスケ男子	
3 年副担任【教務主任】	理科	バドミントン	
3 年副担任	保体	卓球	
5 R担任【特別支援コーディネーター】	英語	総合文化	
6 R担任	家庭	美術	
7 R担任	保体	ソフトテニス男子	
8 R担任	英語	サッカー	
通級指導教員	国語	バスケ男子	
養護教諭	—	—	
介助員	—	—	
看護介助員	—	—	
非常勤講師	国語	—	
非常勤講師	音楽	—	
学校支援員	—	—	
校務補助員	—	—	
校務補助員	—	—	
スクールカウンセラー	—	—	
拠点校指導教員	—	—	
初任者教科指導教員	—	—	
日本語指導教員	—	—	



駅家中学校 校舎配置図



○校章の由来



エキ中の文字を図案化している。

物にもとらわれず、備南の原野に雄飛する駅家の地域をそのまま校章にあらわした。これは、江州や甲州に匹敵する備後商人のど根性を湛えた、有望な人物を抱こうとしている。生徒図案の、雄飛、幸福、愛情、平和を集約している。

(1977年原稿より抜粋)

○沿革史

1947年(昭和22年)	4月	駅家村、宜山村、近田村三カ村学校組合立芦東中学校として開校
1948年(昭和23年)	6月	宜山中学校分離
1948年(昭和23年)	7月	芦東中学校を駅家中学校と校名変更 開校式
1949年(昭和24年)	5月	服部村、組合立に加入三カ村組合立になる。服部に分校を置く。
1952年(昭和27年)	7月	宜山合併、駅家町、宜山村、近田村、服部村の四カ町村組合立駅家中学校の合併挙行。宜山教場
1952年(昭和22年)	11月	服部分校は服部村立服部中学校として独立
1953年(昭和28年)	10月	新校舎落成記念音楽会開催(校歌制定披露)
1955年(昭和30年)	1月	四カ町村合併にて駅家町となる。駅家町立駅家中学校に改称
1956年(昭和31年)	9月	加茂村法成寺地区駅家町に統合(生徒は深安中学校に委託)
1962年(昭和37年)	3月	学校統合により服部中学校と統合し、駅家中学校・駅家教場・服部教場と各々称す。
1964年(昭和39年)	4月	学校統合により、新駅家中学校発足
1964年(昭和39年)	4月	駅家中学校統合式・開校式
1964年(昭和39年)	11月	屋内体育館建設
1965年(昭和40年)	5月	駅家町合併10周年記念及び中学校校舎落成式
1965年(昭和40年)	10月	中庭花壇整備・泉水(心字池)落成
1966年(昭和41年)	10月	駅家町民プール完成(学校用水として学校専門水道に切替)
1975年(昭和50年)	2月	福山市に編入 福山市立駅家中学校と校名変更
1987年(昭和62年)	3月	駅家南中学校新設分離
1989年(平成元年)	7月	北校舎(特別教室)大規模改修
1990年(平成2年)	7月	体育館改修
1991年(平成3年)	7月	技術棟改修
1995年(平成7年)	3月	西側部室・倉庫、プール機械室竣工
2001年(平成13年)	1月	プール棟大規模改修
2002年(平成14年)	9月	校内LAN設備工事
2003年(平成15年)	4月	文部科学省科学技術・理科教育推進モデル校指定校
2004年(平成16年)		
2005年(平成17年)		
2007年(平成19年)	4月	福山市教育研究支援事業(総合的な学習の時間)指定校
2006年(平成18年)	3月	外倉庫・正門・門扉設置
2008年(平成20年)	4月	広島県不登校児童生徒支援モデル事業推進校指定校
2008年(平成20年)		
2010年(平成22年)	4月	福山市教育研究支援事業(総合的な学習の時間)指定校
2011年(平成23年)	5月	ルーマニア・バラの女王来校、噴水バラ園植樹式
2012年(平成24年)	7月	屋内運動場(体育館)耐震改修工事
2013年(平成25年)	3月	屋内運動場(体育館)耐震改修工事完了
2017年(平成29年)	7月	耐震工事(南校舎)
2018年(平成30年)	7月	耐震工事(北校舎)
2019年(令和元年)	12月	教室・特別教室エアコン工事
2020年(令和2年)	4月	個人用PC(クロムブック)一人一台配付
2021年(令和3年)		
2022年(令和4年)		
2023年(令和5年)	3月	卒業記念品製氷機寄贈(2023年度卒業生一同より)
2024年(令和6年)	6月	南校舎外壁改修工事

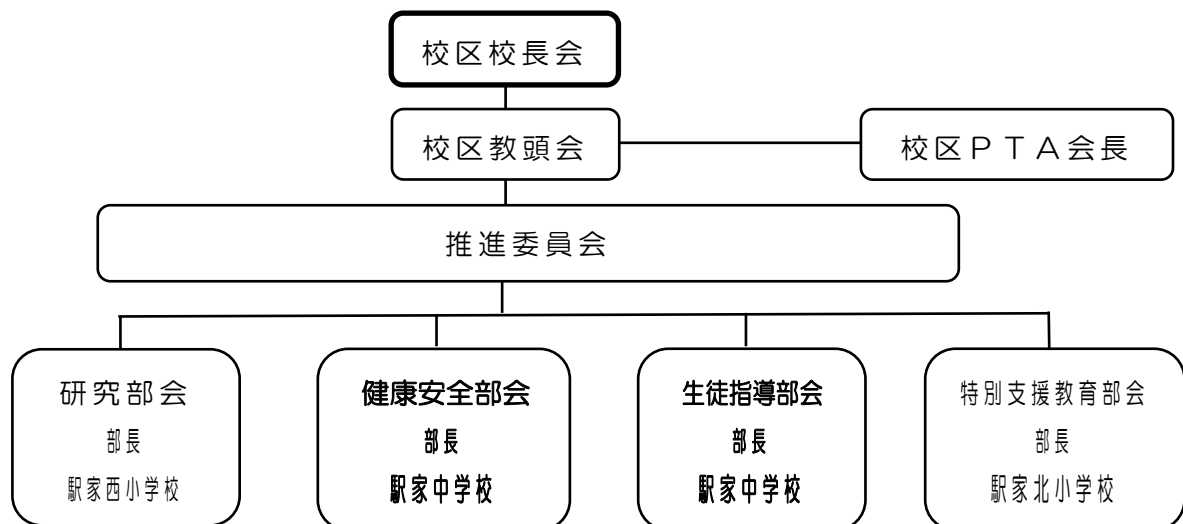
駅家中学校区 2025 年度（令和 7 年度）小中一貫教育推進



駅家中学校区の取組（義務教育 9 年間で育てるこどもの姿）

育成する資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
めざす子ども像 (義務教育終了時の姿)	- 日常生活から課題を見つけ、自身の知識・技能を活用しながら解決する。 - 他者との関わりを通して自身の意見や考えを深め、伝え合う。 - 自身の進路に展望を持ち、その実現に向けて見通しを立て自己決定する。		
中学校区として統一した取組	「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 - 学力調査の分析から課題解決に向け具体的な手立てを研究し、授業を改善する。 - 自分の考えや思いを深める交流の場を作り、全員参加の授業づくりを目指す。		

駅家中学校小中一貫教育推進組織図



各部の取組

研究部会	- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫 - 各校でテーマを設定し、授業実践を行う。成果や課題を交流し、小中学校間の授業から学び合い授業改善に活かす。
健康安全部会	- 体力向上、健康に関わる取組の実践交流 - 各校の取組を決め、交流し、成果と課題を共有する。校区として共通してできることを検討する。
生徒指導部会	- 児童生徒の情報交流・授業参観 - 各校のルールや決まりについて情報を共有し、児童生徒が安心して主体的によりよく学べる学校環境について共通理解を図る。校区として共通してできることを検討する。
特別支援教育部会	- こども理解の在り方についての研修 - 効果的な支援方法について実践交流 - 小 6 ・ 中 1 児童生徒を中心とした密な小中連携